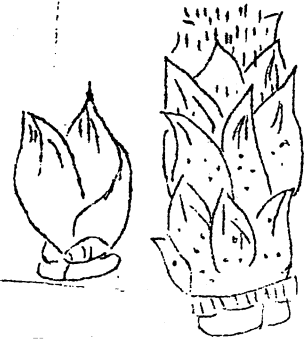


春山報出書

北了縦走

信州天学山岳会伊那松本山岳部

のぞこり五人男



I C.L. から

山から降りて何日もたつと、いっそ、苦しんでこまどが山の楽しい思い出となつて残る。白い梨の花や、山吹や、つつじの花の咲く季節の中で今は目の前にない白い山々の連なりに、それをたどってみてもはやそれは奥感を伴わない。ただ、目くるめく五月の陽光と、香ぐわしい大気の中にあつて、一層白い山は限りなく魅惑的である。確かに部員としての責務とか事務的わすらしさは、ついでに回すけれど、それが手段として必要なものであるなら、甘んじて受けねばならない。

この春山が何をもたらしてくれたか、ナンバーが何をツカんだか、それは、個々に異なるものだろうけれど、ほく個人が期待したように雪山をスキーで歩くことの楽しさ(苦しくはおただろうけれど)というものを少しはわかつてもらえたように思う、ともあれそれが何らかの形で今後にも蓄積するものがあるなら幸いである。

三坂健次。

II. 期間 1974年3月20～3月20日

III. ナンバー

三坂健次	C.L.	1-4
福島 渉	S.L. 渉外, 薬, 医療	1-2
牧瀬敏裕	食糧頭, 梱包, 記録	1-2
須貝与志明	装備, 気象	1-1
豊田 信行	食糧, 会計	1-1

行動記録 (◇はツェルト、Ωは雪洞、合は小屋泊り)
月20日 [⊙→⊙] 猪谷⇄神岡⇄新穂高⇄
[11:30の気温-3°C, 14:10.-6°C] →ワサビ平 ◇

前日、松本より富山を経て猪谷に到着し、馬に泊まる。
新穂高は積雪50cmほどで、雪の降る中を最初からスキーを
つけて出発。(9:20) すぐにラッセルが始まり、左俣の林道は
中山尾根からのデブリが所々に、また笠側からは大きなものも
出ている。晴れてきて雪が重くなると、スキーも急に重くなり、シンドイ。
ワサビ平の北が岳から東南尾根と大ノマ沢を偵察。今日は
ここ迄とする。(14:10着、偵察終了14:40) ワサビ平は積雪150^{cm}。
大ノマ沢越にはすこし雪尻が出ている。沢沿いに鏡平まで
ルートを取ることは危険を感じる。尾根は使える。〔福島〕

月21日 [⊙→⊙強風] 次瀬 ◇
[10:00の気温-1°C]
昨夜からの積雪(+20cm)と高温で雪崩の様子をうかがうため
俣機から結局、次瀬となる。ツェルトなのでいたる所から水滴が
落ちてきてぬれ、さむいのです。……明日も次瀬。(須貝)

月22日 [⊙強風→⊙] 次瀬 Ω
[9:00:-3°C, 15:00:-4°C]
夜半から前線通過の影響か、東、南風が猛烈に吹きまくり
ツェルト、バタバタ、睡眠不足となる。ゆうべ、前方に大きな
ナダレが出た。午前中、雪はやんだが、午後から再び雪が
静かた。かつ激しく降りはじめた。ツェルトでは耐え難い
ので、昼過ぎより(12:30)笠側斜面に雪洞を掘る。(15:00完成)
雪洞を掘り、11時、下山者が1人通る。〔牧瀬〕

月23日 [⊙時々⊙→⊙] ワサビ平北端→鏡平 Ω
[6:00:-14°C, 11:30:-45°C]
気温下がり、雪もある程度おちいている。新雪+40~50cm。
5:45に雪洞を出発。目標の尾根は右俣谷の方から取りき。
時々足元でトーンという音が聞こえ、気持が悪い。鏡平
手前の小Peakの少し下で16:00の天気図を取る。鏡平に
着いたのはよかつたものの小屋が見つからず、結局、暗くなつた
まを雪洞を掘る。(18:30鏡平着、雪洞完成20:30)
就寝したのは、22:30になつてもまった。
ちなみに、日中、見える範囲内でナダレは走らなかった。
〔須貝〕

3月24日 (☉→☉ガス→☉) 鏡平→双六小屋台

昨日眠ったのが遅かったので朝8:00に起きる。そしてしばし待機。12:20に全員雪洞を出發。弓折岳の稜線に上がる手前でスキーをはずしアイゼンにはかかえる。(14:00) スキーは腰からひもで引張る。稜線上はクラストしていてアイゼンがよく効く。標高2620m付近で16:00の天気図を取る。樺沢岳は夏の禁道より一段上へ登ってから下気味におりる。17:10 双六小屋着。寒気が居すわっててもいけるのかきょうも1日晴れなかった。なお稜線に上がる手前で広島大パーティに会い、小屋には大阪府大パーティが先に来ていた。
(豊田)

3月25日 (☉→☉ガス→☉) 双六小屋→三俣蓮華岳→黒部乗越
→黒部五郎Peak手前2600m付近Ω

風なく高曇りで視界はいいが天気は下り坂。スキーで出發する(7:00)。しかし、双六のトラバースをして稜線に出た時、氷まじりなのでアイゼンを着用する。稜線上はアイゼンがよく効く。三俣を越え2550m付近(10:20)から、今山行初めてスキーで黒部乗越へ快適に(?)滑走。11:30過ぎからガスが出はじめる。乗越手前にて豊田のシルベッターのワイヤーがセカれる。シールで黒部五郎を2600m付近まで登る。ガスで視界が悪くなり、悪天に備え入念に雪洞をカール側の斜面に掘る。(12:30~)しかし、予想に反して途中からまた晴れ出した。沖繩付近に停滞前線を伴う低気圧が出た。SHの中から出入口の途中に藜師の見える素直なSHです。
(福島)

3月26日 (☉↑上層Cs~As, 下層St) 黒部五郎→太郎平小屋台

6:50、スキーをザックにつけ雪洞を出發。9:15 強風の中の黒部五郎Peakに着く。黒部五郎を慎重に下り、2577m山峰の手前のコルにてスキーを着ける。(10:30) 中俣乗越に着く所で豊田のシルベッターが壊れ、応急処置をする。(11:50~12:30) 北ノ俣岳Peakを越えた所でシールをはずし(13:30)、転々では滑りながら行く。太郎山はシールで越し、15:00 太郎平小屋着。きょうのコースにスキーのショパールが残っており、数日前に通ったものようだった。目の前に弥陀ヶ原のスロープがまある。
(牧瀬)

3月27日(⊗ 弱い東風
6:00の気温-6℃, 8:00,-3℃) 太郎小屋→薬師岳 2400

→太郎小屋 合
雪の降る中を薬師岳を目指して小屋を出発する。(7:10) 薬師岳
を過ぎて、薬師の登りを進んだが、新雪が重く思いのほか
ラッセルがきつい。結局 豊田のスキーの故障も気になる
ことであり、天候も悪そうなので、小屋に引返し沈没。
そして立山までの縦走は放棄することになった。小屋着(9:15)

(牧瀬)

3月28日(⊗^{西風8-10m}ガス→0) 沈没 合

あとは下山だけで、午前中、天気も悪かったので沈没。
12:00~15:30に三坂、福島、須貝、豊田は外に出て
スキーを楽しむ。スラローム大会を行ない、福島氏が
1位になる。17:00頃には天気が完全に回復して
夕焼けがとてもきれいだった。

(豊田)

3月29日(⊙^① 5:00, 13℃) 太郎小屋→折立平→有峰ダム

→有峰湖西立端

7時に小屋を出発し、シールをはじめはつけなかったが
30分程行った所で登りがあったのでいったんシールをつける。
しばらく快適に滑るが樹林帯に入り、小Peakの手前で
再びシールをつけ木にぶつからないように慎重に滑りなが
ら下る。1500m付近から、屋根の北側の沢に入り、折立平
に着く(10:50) 非常に暑い中を折立からトンネルを抜け
雪崩に注意しながらダムサイトまで行く。湖岸の林道
を大多和峠の2Pitch手前の沢まで必死に歩き、その
沢の横にツェルトを張る。(17:50)

(牧瀬)

3月30日(⊙→⊙₂→⊙)

TS→大多和峠→大多和→西漆山→^{解散}富山

西漆山駅 14:00の列車に乗らないと今日中に松本まで
帰れないので、早く出発する。(6:00) 大多和峠までシール
で2Pitchほど飛ばす。そして、峠でシールをはすして、

雪のある所まで滑る。雪は 大多和部落からは大道
沿いに除雪がしてあったが、除雪の後に新たに雪が
積たらしく、結局佐古部落まで滑ることができた。
大多和峠着 7.50. 佐古部落到着 11.00. 佐古から
は、雪どけ水で湿った道をスキーを背負って歩く。
沿道はフキトウが出ており、春だなあという感じを受
けた。 13.10 無人の西漆山馬に到着する。

(豊田)



反省の余白

I 装備係

今山行中で、一番気をもんだのは、ガソリンでした。1日600ccの予備が、700ccペースで減り、予備も含めてやるといふ感じでした。〈あけまつ縦走を続けていたが〉それにローソクも2.5本では少く、後に存て個装のを使用した。5人用の雪洞内では2本一度に灯したいし、ツェルトの使用も多かった。ラジオについては事前に話をつけておかなかった為、予定していたのがなく、あんなブサイク存のでは、短波も入らないので、行動にも影響があり、まずかったと思います。

II ESSEN 係

今回はスキー山行であり、そのため11カに、軽く、コンパクトにするかが、計画に際しての Key point になった。

以下計画段階における留意点を上げてみる。

- (1) 全般的に今までの山行より量を減らした。
〈Ex〉米は1人1回180g、ラーメンは1人1回1個(90~100g)
- (2) 夕食は半分、米として炊き飯を使い、コンパクト化、軽量化と共に調理時間の短縮をねらった。
- (3) ペミカンは夜1人50gを使い、内容も従来のこま切肉と野菜のもので、朝は炊き飯を1人30gを使用した。
また朝食には乾燥野菜のニンジンを試用してみた。
- (4) 夕食は納豆、みそ汁以外は全て、オジヤにし、たべはふとつしか持って行かなかった。

反省点と今後の指針

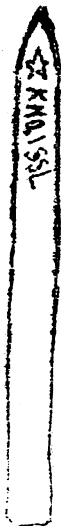
- ① 予想がたよりに行動時間が長くなった時など、炊き飯を使用する時は、米を炊くのに比べ調理時間が半分以外に存るので、非常に好都合であった。

- ② 試しに使用した乾燥野菜は、もどリモよく、味も悪く、軽量化、コンパクト化を考えた場合、ペミカンよりもはるかに小さいと思う。
- ③ 納豆の使用は、昨春、好評だったのと、ペミカンがなかったとは違うあっさりしたものであるという変化をつけた目的があった。Party 内に食わず嫌いの人がいたが、EISEN 係として少しは各人の好みを聞いてよかった。
- ④ 量の問題としては、足りなかったという人が多かった。一般的には、だいたいいよかった。従来のまじり米を、1回230g (or 以上) もカロリー的にも満足的な量はなっているのではなかったらうか。
- ⑤ 結論として SKI 山行の方も、軽量化、コンパクト化を推し進めるべきだった。

III 気象

当初、予定していた朝5:45の高尾の気象をやり直さなければならなかったが、ラジオの関係上、できませんでした。

また、天気図からの天気の手想をやることは、経路の不断の注意にまかすものはないと思いました。



＝ 全体としてのまとめ ＝ (三坂)

計画半ばで下山せざるを得なくなった点で、この山行は失敗だった。(が)それを今後に生かすことをPartyの使命である。反省会、R会での話し合い、ボクの私見を混じえて述べてみた。

問題点

(1) 最低線の依りまま、北上縦走計画を押し進めたこと。

(a) R会にSKI山行に対する認識がうすい。

(b) 乗クラで効果を得られなかった段階で計画の変更をすべきだった。

→ リーダー部員にスキー山行経験者ができたことで今後にくす。

(2) スキーを道具として使うことの未熟さ

歴史の浅さ、指導者がいない → 今後どうし山で使い研究してほしい

長期間様々の使い方、重荷を背負う 此 → 故障、不合理 → 修理改善

スキー金具 多少の歩きにくさを除けば、カンダハールがいいだろう。

どの靴でも合う、故障しても直し易い 取り付け位置に注意、

極 180cm程度はほしい、短いものはラッセルに不合理

ストック 竹で節のあるものがよい 使いやすく修理がきく

ゴムのリングは、切れると直しにくい

シール 今回に限って言えば三坂のが一番よかったが、多くの要素
があるのので一概には言えない。

(3) 雪崩に対する研究不足

「重かける = 動いてよい」結果的に重かけた = 動いてよかった。か?

一年生が冬山前に行くゼミは調べた本人以外あまり意味がない。

部全体でのゼミナールが必要ではないか。

(4) 体力不足

問題点によげざるを得ない

- (5) 2年生に計画に主体的に取り組む姿勢が不足していた。
気がついていても、自信のなさ、意欲のなさからそうなってしまう
... 昨年、一昨年度の新人指導のあり方にも問題があった。
→ 指導すべきことは、自分自身のことは別に指導しなくてはならない。

● 個人的感想

- 失敗とはいっても、天候に恵まれなかった上に、1,2年生だけと言えるメンバーだったことを思えば無事あれだけやれたことは、一つの成果である。
一つの山行が何の支障もなく完遂されるよりむしろつまずきのある方が大きなものを教えるにもたやすことはよくある。もちろん当事者の受取め方がかんであるが、情熱だけで山へ登れない、装備と肉体だけあって山へは登れない。 --- 調和

ぼく個人にとって四畳をこえて北アを縦走するのは初めてである。

それは、ある面で北アのまきを教えてくれたが、ぼくが元来駆けつけた根拠はやはりこの縦走でも感じずにはいられなかった。まに縦走というものの持つ意味のありまいたも、弓折からの稜線が立山というピークの長

- 大糸尾根だというような二じげでもしなれば、探検的な気がするし
● たた情念の対象だけにするには、頭の悪いぼくにとってあまりにも繁雑な教式を必要とする。10日でも春が終わるまででもその中で歸っていたら美しいカールも横目で見て通り過ぎねばならぬ口惜しさもある。新しい発見があったとすれば北アの中にも行ってみたいと思えるところがあることを認識できたことだろう。いつかまたそんな中へ遊ばないとあるだろう。

三坂 記